

しゅとう
中野十一中
手套
同窓会新聞
 第27号
 平成27年4月
 発行
 中野区立
 (旧)第十一中学校
 同窓会幹事会

同窓会 会長

一九期生 大内 慎吾

中野区立第十一中学校は、昭和三十三年四月一日に設立されました。校章の由来は、「文化勲章と同様に、橘花を形どる。文化、芸術、体育等の基礎を修めて、社会に貢献する人物になることを祈念する。」ということでした。

この手套が届く頃、おそらく桜の季節です。同窓生の皆さん、それぞれ



れ十一中時代の思い出があると思います。私の一番の思い出は、この校です。グラウンド一杯に咲き誇る桜、正門の入口、お地蔵さんを包むように咲く桜。部活のランニングをさぼって休憩した徳田公園にも。

昭和四九年、私が入学当時は、まだ木造の校舎でした。中庭があり、花壇もありました。北西の角に決まっていたといは言えないトイレがありました。体育祭では、危険ということでは無くなりました。四〇年近く経っても中学時代の思い出は鮮明に残っています。



母校、十一中学校が統合されて早いもので七年が経ち、新校緑野中学校は、七期生がこの春、卒業式を迎えました。

平成三十一年には、同窓会設立六〇周年を迎えます。そろそろ準備を始めなければ……

同窓生の皆さん、その際はご協力お願いします。



同窓会 幹事長

七期生 笠原 敏

十四回目の同期会（七期会）を昨年十月十八日銀座にて開催しました。先生三名、初参加二名、計三十名でした。詳しくは七期のホームページをご覧ください。（アドレス nanaki.kidane.com）同窓会の活動ですが、日頃から御理解と御協力をいただき有難うございます。同窓会活動は一、同窓生の親睦。二、母校

の発展の支援が主な活動です。一としては①定期総会の開催②広報紙の発行③ホームページの運営が主です。また同窓会は通学区域を中心とした地域の連帯の為に活動していきます。財政状況ですが、卒業時に納入する入会金と会員の賛助会費（任意）により運営されています。

十一中の閉校により入会金はなくなり、賛助会費のみが収入源です。今年度は同窓生の「住所判明者」全員（約四千四百名）に広報紙「手套」発送しました。発送だけでも約三十万円かかります。毎年、継続しようと思いますが、資金不足です。

同窓生の皆様には賛助会費の納入をお願いする次第です。



同窓生紹介

オーケストラ指揮者

井上宏二さん



《略歴》

中野第十一中十期生。都立富士高等学校を経て、東京学芸大学教育学部作曲専攻に入学。同大学で作曲を吉崎清富氏に、指揮を伊藤栄一氏に師事。卒業後、イタリア国立サンタ・チェチリア音楽院オーケストラ指揮科に入学。指揮をブルーノ・アブレア氏に師事し、ディプロマを取得。卒業後三年間、同音楽院のオーケストラ指揮科の助手を務める。一九九〇年からルーマニアのブカレスト、ヤシ、クルージュ等同国各地で指揮活動を始め、一九九七年、ルーマニア国立ヤシ歌劇場常任指揮者に就任。二〇〇八年まで常任指揮者を務める。また、一九九八年から二〇

〇〇年まで、国立ジョルジュ・エネスク音楽大学オペラ科の指揮者を務め、一九九九年からは毎年、国立ジョルジュ・エネスク・フィルハーモニーに客演している。二〇〇二年秋、日本・ルーマニア国交百周年記念公式行事の一環として、国立ブカレスト歌劇場にてオペラ「夕鶴」（団伊玖磨作曲）を同国で初演し、好評を博す。この成功により二〇〇四年、同劇場の常任指揮者として招かれる。現在は同国の他、ウクライナ、モルドヴァ、ブルガリア、キルギスなどで指揮活動を行っている。

●音楽家になるきっかけは？

中学二年生の時の音楽会（音楽室）で同期生の水谷進君がメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲の第一楽章を弾いた時のこと。彼の演奏にとても感動し、この感動が自分の音楽の始まりなのです。感謝しています。私も丸山小学校の一・二年生の時に、今は籠原公園となっている野方幼稚園で週一回ヴァイオリンを習っていたのですが、私はそれが嫌で、二年で止めてしまっただけに、余計にそのように感じたのかもしれません。

●大学で作曲を学ぼうとしたのはなぜ？

本格的に楽器を習ったことがな

かったので、まずは教育学部の音楽科作曲専攻を受験することにしました。高校三年生の二学期から、十一



中在学当時に音楽の教諭をされていた菅原康夫先生にピアノを教えていただきました。先生は当時すでに十一年から他校に移られていましたが、小平にあった先生のお宅でバイエルから教えていただきました。仕事の後でお疲れの先生が、よく隣の椅子で軒をかがいでいらしたのが懐かしいです。

●大学時代に学んだことは？

大学三年生の時、丸山小学校で音楽を教えていらした大平先生のご紹介で、十一中の先輩でもある北川曉子先生（二期生・現在は東京芸術大学名誉教授）にピアノを教えていただく機会を得ました。ちょうど先生がウィーンからお帰りになられた頃で、私が二十七歳で日本を出るまで

お世話になりました。国立ウィーン音楽大学を全教授一致の最優秀で卒業され、ベーゼンドルファー・コンクールで優勝されたり、ミュンヘン国際コンクールで最高位になられた北川先生に教えていただいたことは、本当に幸運でした。今考えると、北川先生からは音楽で一番大切なことを教えて頂いた気がします。指揮に関しては大学の勉強とは別に、高階正光先生の指揮法教室で小澤征爾さんらを育てた齋藤秀雄氏の「齋藤指揮法」を学びました。

●十一中との繋がりが多いですね。

そうですね。同期の仲間、先輩、そして恩師と私の音楽人生は十一中なしに語ることはできません。

●イタリアの音楽院で指揮を学ぶことになったいきさつは？

大学卒業後二年間は、タクシートの運転手をして生計を立てていました。一九八〇年にイタリアに渡り、多くの著名な指揮者を育てたことで知られるフランコ・フェッラーラ先生に教えていただき、先生の薦めでローマにあるサンタ・チェチリア音楽院を受験しました。指揮科の上級コースの受験に

は七年作曲を勉強した証明書が必要だったのですが、入試が音楽院のストライキで三か月遅れたり、日本の大学で二回留年して六年間学んだ？（大学入学後ほぼ七年経っていた）ことが幸いして、受験資格を得ることができました。

●留学中に苦労したことは？

イタリアの食料品店には、ケチャップ、タバスコ、とんかつソースがなく、また下宿していたアパートの近くには飲み屋が全くなくて困りました。さらには、アパートの水道やトイレがよく壊れるので苦労しました。

●サンタ・チェチリア音楽院卒業後は

どのような活動を？

音楽院で助手を務めながら、イタリア各地、パリ、ハンブルグ、ドルトムント、チューリッヒの歌劇場に赴き、オペラやオーケストラの指揮について勉強しました。また一方で生活費を稼ぐために、イタリアで旅行ガイドをした時期もありました。

●オペラの指揮をするようになった

のはなぜ？

最初からオペラの指揮をしようと思っただけではないのですが、やはりイタリアで勉強したからではないか

と思います。イタリア語が分かりやすく、殆どのオペラは歌詞がイタリア語だからです。パリ・ミラノ等で随分オペラを見て勉強しましたが、いざ仕事を始めてみると、なぜかオペラの仕事が多かったのです。

●ルーマニアに活動の拠点を移したのはなぜ？

一九九〇年夏にルーマニアからやっ

てきたオーケストラの演奏を聴く機会がありました。同じ年にルーマニアのオラデアという都市で講習会があるというので、それに参加したのですが、前年にチャウシェスクによる独裁政権が崩壊し、民主化が始まっていて、ルーマニアという国に可能性を感じたからです。オペラ座には本当に良くしていただき、レパートリーをたくさん増やすことが出来ました。懐かしいです。

●ルーマニアはどのような国？

旧東欧で唯一ラテン系の国で、言葉はイタリア語に近いです。性格は醒めたイタリア人と温和な日本人の間で、結構付き合いです。ヤシは本当にノンビリした所でした。「果報は寝て待て」を地でやっているような所でした。

●現在の活動は？

最近ではキルギスという国でも活動を行っています。一番印象に残っているのは、首都ビシュケクの国立歌劇場で演奏したレオンカヴァッロ作の「道化師」です。客席が千二百程あり、思い切り演奏出来ました。今年の五月にはキルギスの北にあるカザフスタンの新しい首都アстанаでコンサートの予定があります。この国は埋蔵資源が多く

てお金持ちなので、ギャラの面でも期待出来そうです。

●日本での活動は？

以前は日本でもよくオペラの公演をしていましたが、最近では小さなオペラグループの試演会を年に一回やる程度です。突然ルーマニアから演奏依頼があることもあり、昨年は十期生の同期会に参加するのを楽しみにしていたのですが、予定していた指揮者が病気になる、急遽ルーマニアに戻ることになってしまいました。

●最後に、緑野中の後輩たちに一言お願いします。

「待てば海路の日和あり」焦らずに地道に努力していれば、報われる時が必ずやって来ると思います。

《お知らせ》

井上さんの演奏をご覧になりたい方は **Conductor Koichi Inoue Romania** で検索して下さい。ベートーヴェン、モーツァルト、ドビッシューなどが聴けますよ。

(U)



ルーマニア・フネドアラ城での野外オペラ



フネドアラ城外観

同期会報告

十期

昨年十一月九日、新宿京王プラザホテルにおいて、十期生の同期会が開かれました。当日は小坪進、矢島祐治、八代直之の各先生が出席下さり、総勢三十一名での会となりました。

毎年の同窓会総会後に集まることは幾度かあったものの、正式な同期会としては初めての会だったので、卒業後初めて再会するという人も多く、会の開始直後は改めて四十七年という歳月を感じさせられました。話が進むに連れて



皆昔の顔に戻って、大いに盛り上がり、この上なく楽しいひとときを過ごすことができました。

私たち十期生を担任として唯一、三年間指導して下さいました故工藤裕功先生をお元気な内にお招きできなかったことが悔やまれますが、出席された三名の先生方からは、十一中創立当初のことや全盛期の水泳部のこと、そして当時はとても公にはできなかった話なども聞かせていただき、懐かしい十一中の思い出に浸ることができました。

あっという間の二時間半でしたが、最後に記念写真を撮影し、十一中校歌を斉唱して会を終りました。

(宇佐美悟)

三十九期

昨年十一月一日、平成八年度卒の第三十九期生の同期会が卒業後十八年振りに開催されました。当日は、同じく平成五年度卒業生である阿部悟様の紹介で、初台のオペラシティ一五十四階にある中国料理「東天紅」にて、FacebookやLINEなどのSNSからの呼び掛けにより集まった約三十名が、懐かしい思い出話に花を咲かせていました。

また、国語科の衣山先生も、お忙しい中出席していただき、最後の先生からのご挨拶では、往時の授業を彷彿させるといふ一幕もあり

ました。

残念ながら、都合がつかなかった人や、連絡が取れずに欠席となった同期生も大勢いました。一回だけの開催に留まらず、定期的に開催して同期生の輪を広げていきたいと思えます。

(山本佳典)



〔平成二十六年同窓会役員〕

会長	大内 慎吾	〔十九期〕
副会長	藪井 正子	
幹事長	(旧) 増島 敏	〔九期〕
幹事	笠原 敏	〔七期〕
会 計	磯田 富美子	
会 計	(旧) 花塚 真理子	〔十五期〕
会計監査	猪俣 真理子	〔二期〕
会計監査	宇佐美 悟	〔十期〕
会計監査	保谷 かつ子	
	(旧) 平田	〔十七期〕

〔編集後記〕

◎今年度は念願の？同窓生全員に手紙を送りました。約八千三百名の同窓生で住所判明者は半数です。この広報紙が届かない会員は連絡を下さい。

◎「同窓生紹介」の情報を下さい。自薦、他薦で構いません。情報をおまちして下さり。(K)

**第十一中学校同窓会総会
第六十一中学校同窓会懇親会**

平成27年5月16日(土)

総 会 午後2時30分～3時
懇親会 午後3時～4時30分
場 所 緑野中学校地下体育館
会 費 500円(20歳未満は無料)

同窓会、ホームページアドレス <http://n11jhs.net/>

〔平成二十五年度会計報告〕

(収入の部)項目	予算額	決算額
前年度繰越金	224,751	224,751
賛助会費(137口)	200,000	274,000
懇親会費	30,000	26,398
雑収入(利子)	249	60
合計	455,000	525,209

(支出の部)項目	予算額	決算額
通信費	180,000	78,634
消耗品費	20,000	18,610
総会当日費用	45,000	40,797
幹事会費用	30,000	16,109
同窓会新聞発行費	120,000	85,880
同期会開催補助費	10,000	5,000
ホームページ運営費	30,000	10,000
賛助会費振込手数料	15,000	14,300
予備費	5,000	0
次年度繰越金	0	255,879
合計	455,000	525,209